

5

2012
No. 85

広報

わかさ

Public-relations Wakasa

ピッカピカの一年生♪

これからも上を向いていこうね

(入学式 鳥羽小学校)

当初予算

どんなまちづくりかな？



平成 24 年度の若狭町の当初予算がまとまりました。
 今年度の一般会計の予算額は、前年度と比べると 10.9%の減額となりました。
 限りある予算をどのようにまちづくりに活かしていくのか、当初予算の数字から少し見てみましょう。

一 般 会 計 94 億 342 万円

一般会計とは、教育や福祉、道路・公園の整備など生活全般に関する事業を行う会計です。皆さんに納めていただいた町民税や固定資産税などは、この会計の財源に含まれます。

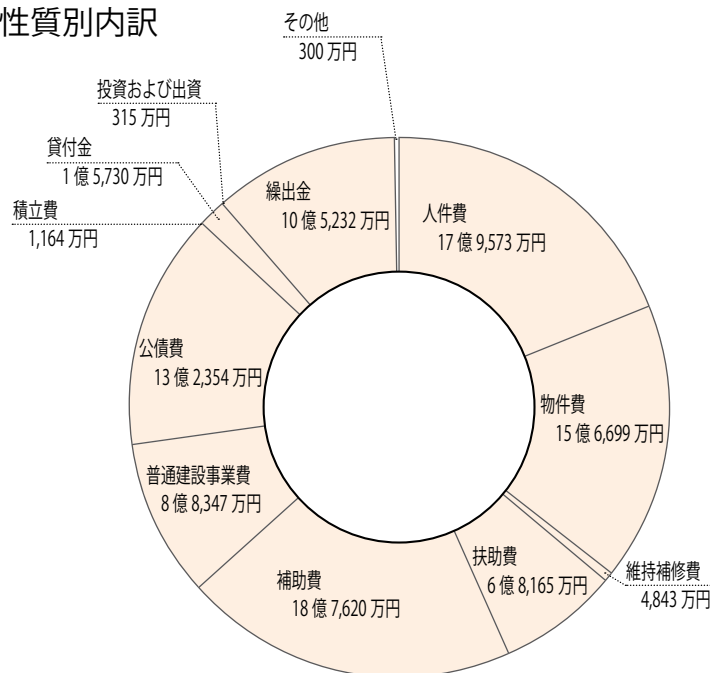
歳 出

行政分野別内訳

分 野	予 算 額	前年度比
議 会 費	1 億 1,769 万円	△ 11.7%
総 務 費	13 億 4,432 万円	△ 22.5%
民 生 費	22 億 3,605 万円	2.5%
衛 生 費	10 億 6,712 万円	0.4%
労 働 費	4,215 万円	△ 54.7%
農林水産業費	8 億 5,017 万円	0.1%
商 工 費	1 億 8,485 万円	△ 60.7%
土 木 費	7 億 2,992 万円	△ 35.0%
消 防 費	6 億 4,611 万円	2.1%
教 育 費	8 億 5,847 万円	△ 9.1%
公 債 費	13 億 2,354 万円	0.8%
諸 支 出 金	0 万円	△ 100.0%
予 備 費	300 万円	0.0%

※千円単位を切り捨てして金額を表示しているため、合計額と金額は一致しません。

性質別内訳



用語解説

【歳出】

- 「人件費」 … 議員報酬や職員給与など
- 「物件費」 … 賃金や旅費、交際費、需用費などの経費
- 「維持補修費」 … 道路や公共施設などを管理するための経費
- 「扶助費」 … 高齢者や児童、障害のある方などに対して行う支援経費
- 「補助費」 … 町から団体などに対して支払う経費
- 「普通建設事業費」 … 道路や公共施設の新設・増設するための経費
- 「公債費」 … 町の借金などを返済する経費
- 「積立金」 … 財政運営を計画的にするための経費
- 「繰出金」 … 一般会計や特別会計、企業会計などの間で、相互に資金運用するための経費

【歳入】

- 「町税」 … 主に町民税や固定資産税、軽自動車税、たばこ税など皆さんに納めていただく税金
- 「地方交付税」 … 町の財政力に応じて国から交付されるお金
- 「国庫支出金」 … 町が行う特定の事業に対し、国から交付される補助金など
- 「県支出金」 … 町が行う事業に対して県から交付される補助金など
- 「町債」 … 町の借入金で、返済が2年以上にわたるもの

■ 自主財源

町税や諸収入など自治体が自ら確保することができるお金

■ 依存財源

地方交付税交付金、国・県からの支出金などその他の財源に頼るお金

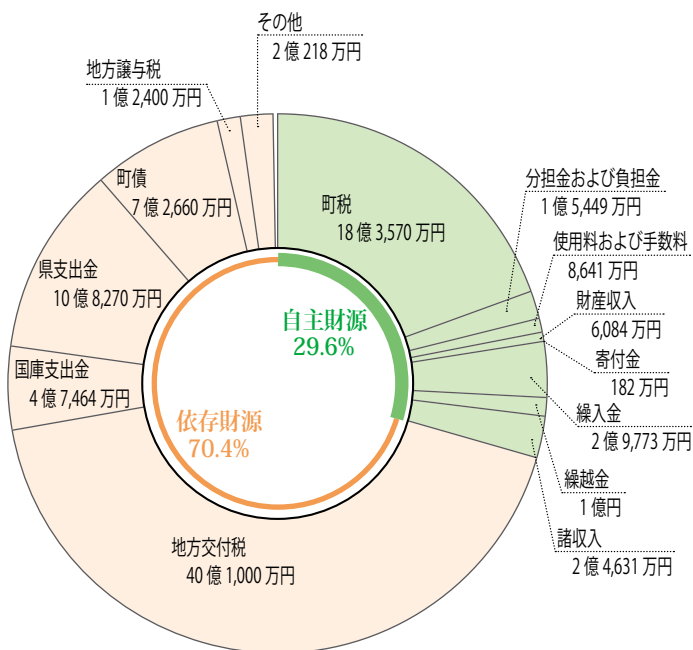
ぼくたちへの予算はどうなってるの？

これは興味深い…



※今回、予算の紹介にあたり、気山保育所の園児たちに撮影の協力をいただきました。

歳入



特 別 会 計

49 億 1,269 万円

特別会計とは、特定の事業を行うための予算のことで、若狭町には 11 の特別会計があります。

例えば、国民健康保険税は国民健康保険に、簡易水道使用料は簡易水道施設の維持費用などに使われるなど、その目的のためだけに収入・支出を行う会計のことで。

会 計	予 算 額	前年度比
国民健康保険特別会計	17 億 7,488 万円	△ 2.3%
後期高齢者医療特別会計	1 億 6,995 万円	0.3%
直営診療所特別会計	8,220 万円	803.3%
介護保険特別会計	15 億 416 万円	△ 0.7%
簡易水道事業特別会計	2 億 1,761 万円	37.5%
農業者労働災害共済事業特別会計	193 万円	△ 11.4%
農業集落排水処理事業特別会計	4 億 2,265 万円	5.7%
漁業集落排水処理事業特別会計	3,675 万円	0.4%
公共下水道事業特別会計	5 億 5,786 万円	△ 2.7%
町営住宅等特別会計	1 億 4,376 万円	△ 0.8%
土地開発事業特別会計	88 万円	△ 97.3%

※千円単位を切り捨てして金額を表示しているため、合計額と金額は一致しません。

これだけ特別会計があるよ。



企 業 会 計

11 億 534 万円

企業会計とは、地方公営企業法の適用を受けるもので、独立採算制をとっている会計です。

民間企業と同じように、お客さまから事業内容に応じた料金をいただき、かかる経費をまかなっている事業です。若狭町では 3 つの企業会計があります。

会 計	予 算 額	前年度比
水道事業会計	3 億 20 万円	30.8%
工業用水道事業会計	4,752 万円	41.6%
上中病院事業会計	7 億 5,760 万円	△ 2.5%

※千円単位を切り捨てして金額を表示しているため、合計額と金額は一致しません。

企業会計は
独立採算制だよ。



予 算 と は

予算とは、町が 1 年間に使う経費の単なる目安ではありません。まず、各課ごとに算出額を財政担当に要求します。財政担当課と費用対効果など事業の妥当性を検証し、財源として国や県から補助金を充てられないかを検討します。その後、町長が査定を行い「予算案」がまとまります。この予算案を、町長が、皆さんの代表である町議会において説明を行い、議会で承認されると「予算」としてようやく成立します。

また、予算には、「成立した予算に従って計画どおりに事業を行わなければならない」という強い拘束力があります。つまり、予算が決まるということは、その町の「まちづくり」の方向が定まったと言えます。

主 要 事 業



子ども・若者サポートセンター運営事業
事業費 606 万円
困難や悩みを抱える子どもや若者、その家族を関係機関と連携して継続的に支援します。



若者エコ住宅整備事業
事業費 188 万円
環境と再生エネルギーを考慮したエコタウンを目指し、若者が住みやすい住環境整備を図ります。



防災拠点施設整備事業
事業費 2 億 1,860 万円
若狭消防署上中分署（上中地域防災拠点施設）を整備します。
※継続事業（2年目）



有害鳥獣対策事業
事業費 4,914 万円
有害鳥獣の捕獲および嶺南地域有害鳥獣処理施設の運用など鳥獣害対策を図ります。



安全・安心な学校づくり事業
事業費 1,728 万円
三方小学校体育館、三宅小学校体育館、熊川小学校校舎の耐震改修のため実施設計を行います。



熊川重伝建保存修理修景事業
事業費 3,551 万円
国の重要伝統的建造物群保存地区である熊川宿の民家修景整備に対して補助を行います。



若狭三方縄文博物館施設リニューアル事業
事業費 5,700 万円
身障者用トイレ設置や館内の機材などを改修し、館内の設備や展示物の充実を図ります。

どれどれ、
今年の気になる事業は？



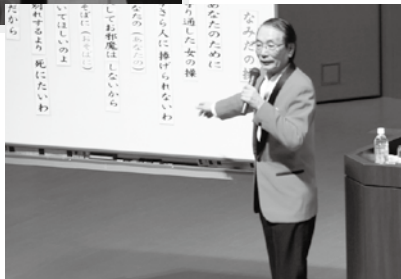
まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)



◀福祉と芸術・文化
のまちづくりにつ
いて話す今川さん

▶地域のコミュニ
ケーションづく
りについて講演
する多田さん



地域の絆を考えよう (3/11)

若狭町まちづくりトークがパレア若狭で行われました。

町のふるさと大使でピアニストの今川裕代さんが、ピアノコンサートに加え、音楽を通じた福祉や芸術文化のまちづくりについて話しました。

また、元殿様キングスの多田そうべいさんによる講演会も開かれ、「災害が起きたときは隣近所の助け合いが必要。まちづくりは近所づきあいから」と、コミュニケーションの大切さを強調しました。

来場者は、自分たちの地域づくりに活かそうと熱心に耳を傾けていました。



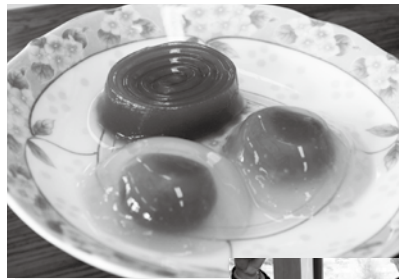
熊川葛って美味しい (3/14)

熊川葛を使った料理体験学習が熊川公民館で行われ、熊川小学校の児童 17 人が葛まんじゅうづくりに挑戦しました。

この取り組みは、熊川葛振興会が主催したもので、昨年 12 月に児童らが葛根の粉碎やしほり作業を体験し、完成した葛粉を使った料理を学び、地元特産品について理解を深めるものです。

今回、若狭町でも馴染みのある葛まんじゅうを地区の住民に習いながら作りました。

児童らは、「葛の部分だけでもツルっとして美味しい」と、自分たちで作った葛まんじゅうを満足そうに食べていました。



◀出来上がった葛
まんじゅう
(写真奥は
葛ようかん)

▶葛を容器に入れ
る児童ら



◀生物多様性や環
境保全について
話す吉田准教授

▶水辺環境につい
て話し合う生徒ら



三方五湖の現在・過去・未来 (3/14)

三方中学校で郷土の環境学習が行われました。

この学習は、郷土の自然環境を把握し、さまざまな課題に対して、生徒らが自分なりの考えを深めることを目的としています。

この日、同校の 2 年生約 80 人が、東京大学の吉田丈人准教授（若狭町鳥浜出身）から三方五湖の生物多様性や環境保全について学びました。

また、生徒らは祖父母や地域の方々に聞き取りした昔の水辺環境について班ごとで話し合い、「昔のような環境を取り戻すために、今できることを実践したい」と話していました。



▲まちの活性化について語り合う参加者ら



若者同士で語ろう！ (3/15～17)

若者でまちを元気に盛り上げようと、LET'S チャレンジ若者交流合宿が、県立三方青年の家で行われました。

この取り組みは、若者同士が交流を深め、地域のリーダーとして活躍する人材を育成しようと町が企画したもので、町内に在住・勤務する若者20人が2泊3日の合宿に参加しました。

参加者らは、地域で活躍する人たちを招いてトークセッションしたり、ニュースポーツや懇親会で参加者同士が交流して、夜遅くまで地域のことなどについて語り合いました。

合宿を通じて、地域の若者による新たなチャレンジが創出されることを願います。



万が一も無いように (3/18)

昨年3月に発生した福島第一原発事故を受け、福井県で初めて原子力防災総合訓練が行われました。

訓練には、国や県、市町、自衛隊など関係者ら約1,500人が参加し、地震の発生に伴い県内の原子力発電所から放射性物質が外部に放出される恐れがあると想定された訓練が行われました。

若狭町では、避難指示を受けた敦賀市の住民約140人が同町の勤労者体育館へ避難し、医師らによる避難者のスクリーニングや問診を受け、また、自衛隊による車両除染の訓練などが行われました。

訓練後、西川知事は「訓練結果を検証し、一つひとつ実践的な訓練を積み重ねていき、効果的な防災に取り組みたい」と話しました。

今回は訓練でしたが、災害はいつ起こるかわかりません。日頃から各自で防災意識を高め、あらゆる災害に備えておきましょう。



▲医師による問診訓練の様子



▲避難者の受付訓練の様子



▲スクリーニング訓練の様子



▲車両除染訓練の様子



◀田舎料理を試食する参加者ら

▶料理を通じた田舎の魅力について講演する向笠さん



田舎の魅力を引き出そう (3/16)

田舎料理研修会が中央公民館で行われました。研修会は、若狭町エコ・グリーンツーリズム推進協議会が開催したもので、農家民宿をされている方や農家民宿に興味のある方など約30人が参加しました。

研修会には、食文化研究家の向笠千恵子さんを講師として迎え、田舎料理を通じた田舎の魅力や楽しさについて講演が行われました。

向笠さんは、「お客さまが喜ぶアイデアは身近にある。地元ならではの接客が大切」と、参加者にアドバイスしていました。

研修会の後、田舎料理の試食会が行われ、参加者らは一品一品味わいながら意見を交わしました。



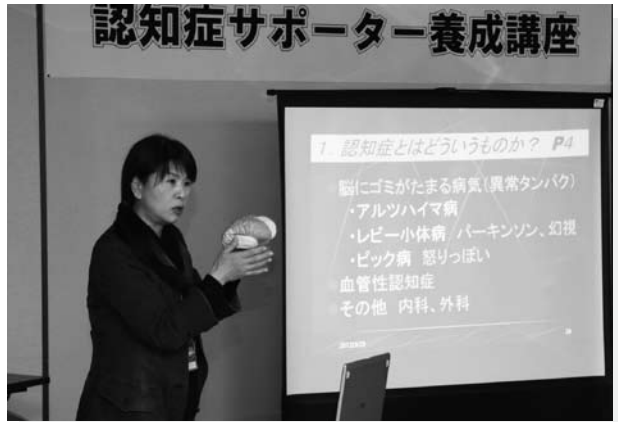
正しく理解しよう (3/23)

認知症サポーター養成講座が上中庁舎で行われました。

認知症とは、脳の病気で、誰もが発症する可能性がある病気ですが、周囲の理解と手助けにより、和やかに生活することができます。

今回の養成講座では、主に接客業の方を対象として行われ、講座に訪れた約40人の参加者は、認知症や、認知症の方への接し方などについて理解を深めました。

講師の若狭町地域包括支援センターの高島看護師は、「認知症サポーターは、何かをする人ではなく、優しく見守る応援者。そのためには、認知症を正しく理解して欲しい」と話していました。



▲認知症について説明する高島看護師



◀研修に参加したメンバー (3/24 結団式)

▶現地の子どもたちと交流する参加者



百聞は一見にしかず (3/24 ~ 31)

オーストラリア派遣研修が行われ、町内の中学生14人と成年リーダー4人が参加し、8日間の日程で、同国南東部に位置するニューサウスウェールズ州で、現地の人たちと交流しました。

この研修は、国際化が進む中、地域のリーダーとして活躍するために視野を広げてもらうことを目的として、町と若狭町国際交流協会が企画しているものです。

現地では、ホームステイや学校訪問などを通じて、子どもたちやその家族と交流を深めました。

また、参加者らは雄大な自然にも触れ、ゆっくりと流れる時間の中で、かけがえのない大きな宝物を得ることができたようです。



▲熱戦を繰り広げる参加者ら



シャトルを追いかけて (3/25)

第7回若狭町バドミントン大会が三方体育館で行われました。

大会には、町内に在住・勤務、または嶺南地区のバドミントンサークルに所属する約50人が参加し、各試合で熱戦を繰り広げました。

試合結果 (①優勝、②次勝、③3位)

男子の部 ①松本慎史&牧野伸哉 ②中川恵一&坂口幸多
③林 泰広&長江尚史

女子の部 ①津原真澄&松本知鶴 ②竹中美緒&宮川悦代
③中川奈緒&野村由佳理

混合の部 ①松本慎史&松本知鶴 ②林 泰広&津原真澄
③坂口幸多&野村由佳理

初心者・親子の部

①堀田剛史&岸本かれん ②中村乃扶子&磯見奈々
③宮川 将&宮川悦代



地域の課題を地域で取り組む (3/27)

地域支え合い検討会議報告会および実践研修会が歴史文化館で行われました。

報告会では、福祉に関する地域の課題などに対して各地区が検討し、課題の解決に向けた取り組みや目標などを発表しました。

各地区からは、高齢者の交通手段や地域交流のしくみなど、地域の特色ある取り組みが報告されました。

発表後、東京大学名誉教授の大森彌さんが各地区の取り組みについて講評し、「他の地域から学ぶことは大切なこと。良い取り組みを真似れば、次はもっと良いものができる」と話していました。



◀検討会議での取り組みを発表する地区の代表者

▶各地区の取り組みを講評する大森名誉教授



▲優勝旗を手にする坊さん(写真右)と賞状を手にする長谷部さん(写真左)



競技かるたで全国王者 (3/28)

第42回全国小・中学生かるた選手権大会の入賞報告会が三方庁舎で行われました。

入賞報告には、中学2・3年の部で優勝した坊亜沙美さん(南前川)と、小学3年の部で3位入賞した長谷部心優さん(朝霧)が訪れ、森下町長に成績を報告しました。

坊さんは、「いつも負けている相手に勝てたことが嬉しい。これも一緒に練習してくれた人のおかげ。これからも感謝して、全国優勝した人らしいプレーをしたい」と話し、また、長谷部さんは「これからもチャンスはあるので優勝したい」と、次の大会に目を向けていました。



▲地域の魅力について講演する福井教授



地域の魅力を見つけよう (3/28)

地域の魅力発掘研修会がパレア若狭で行われました。

この取り組みは、地域の魅力発掘に対する意識を高めてもらおうと、社団法人若狭湾観光連盟が広く一般にも募集し、研修会には、関心のある方など約20人が参加しました。

研修会では、東京農工大学大学院客員教授の福井隆さんを招いて、古くから地域に伝わる知恵や歴史の理解を深めて“地域にあるもの”を活かす「地元学」について講演が行われました。

福井さんは「地域に元々あるものを組み合わせ、新しい価値を作ることが大事」と話し、参加者らは熱心に耳を傾けていました。



春だ！観光シーズン幕開け (3/31 ~ 4/1)

観光シーズンの幕開けを告げる「三方五湖春まつり」が行われました。

初日には、レインボーライン山頂公園において、恒例の「かわらけ投げ」でシーズン中の賑わいや安全を祈願し、また、久々子湖では、湖を開く意味を込めて「黄金の鍵」が遊覧船から湖へ投げ入れられました。

その後、地元の保育園児らが祈念乗船して、観光シーズンを賑やかにスタートさせました。

当日は、あいにくの雨模様となりましたが、レインボーラインでは、しじみ汁が振る舞われ、来場者らは心身ともに春の訪れを感じていました。



▲願いを込めて素焼きのかわらけを投げる関係者ら



◀完成した
処理施設



有害鳥獣処理施設が完成 (4/4)

嶺南地域有害鳥獣処理施設が若狭町海土坂に完成し、竣工式が行われました。

式では、嶺南市町を代表して敦賀市の河瀬市長が「農作物被害対策だけではなく、施設が農業振興や地域発展に役立つことを期待したい」と式辞を述べ、関係者らがテープカットや焼却炉への火入れのスイッチを押したりして施設の完成を祝いました。

同施設は、2010年から若狭町が主体となり施設整備を行い、今後は、嶺南市町が共同で施設を運営することになります。

▶テープカット
する関係者ら





◀貫通式に参加した地元の児童ら



▶貫通を祝う
工事関係者ら



祝・トンネル貫通 (4/5)

舞鶴若狭自動車道の若狭町と小浜市を結ぶ鳥羽トンネルの貫通式が行われました。

鳥羽トンネルは、若狭町の上黒田から小浜市大谷を結ぶ延長2,109mのトンネルです。

貫通式では、若狭町と小浜市の両側からそれぞれの関係者が発破のボタンを押して、爆発音とともにトンネルが貫通しました。

その後、地元の小学生9人がくす玉を割ってトンネルの貫通を祝い、森下町長と松崎市長が貫通点で握手を交わしました。

貫通点では、お互いの住民や関係者らが記念撮影などをしてトンネルの貫通を喜びました。

舞鶴若狭自動車道は、平成26年度に全線開通する予定です。



ピッカピカの1年生 (4/6)

町内の各小学校で入学式が行われました。

この日、鳥羽小学校では15人の児童が新入生として入学しました。

入学式では、6年生が1年生一人ひとりと手をつないで入場し、1年生はドキドキした顔や恥ずかしそうな顔をしながら、用意されたそれぞれの席に座りました。

それでも、担任の先生から名前を呼ばれると、「ハイ！」と大きく元気な声で返事をし、式を見守る保護者や来賓の方も安心した表情を浮かべていました。

入学式は、この日に町内の各小学校でも行われ、139人の児童が1年生として入学しました。

←表紙の話題



◀入学式に参列する児童ら

▶担任先生の話を聞く児童ら



まずは相談してみよう (4/9)

子ども・若者サポートセンターが上中庁舎2階に開所しました。

この日、開所式が行われ、約30人の関係者が開所を祝いました。

当センターは、0歳からおおむね40歳までの若者や、その家族が抱える悩みや問題の相談を受け、各関係機関と連携して支援するセンターで、県内では初めての開所となります。

藤井センター長は、「困難や問題を抱える方とその家族の方に、ひと筋の光を差し込むようなセンターとしていきたい」と、開所にあたっての抱負を語りました。



▲サポートセンターの看板を取り付ける森下町長と中村相談員